

新年のごあいさつ

法蔵寺筆頭総代

大島 茂 様



謹んで新年のお祝詞を申し上げます。

さて、総本山知恩院の伊藤唯眞門跡様は次のような説法をなされておられます。

「樹木の根は地中に隠れて、その姿が愛でられることはありません。しかし、地中に張った根があつてこそ樹木は大地に固定され、地中の養分を吸収し、樹幹は太り、枝葉は茂ります。植物が根に支えられているように、人間もまた『根』が必要です。人の根とは・・・それは、信仰、宗教です。信仰の根、つまり『信根』があれば、人生の嵐にも耐えられましょう。樹木の根が人目につかない地表下にあつて幹を支えているように信仰の根も人の内面に存在します。

私たちも樹木同様その根『信根』を培おうではありませんか。

信仰の根を培うものとは正に

《お念仏》なのです。」と。

新年を迎えた私たちも心新たに
お念仏に励みましょう。

さて、菩提寺では、一月の修正会から十二月の除夜の鐘まで、季節に沿つてどなたでも参加できる行事がなされており、檀信徒皆々様のご参加をお待ち申し上げます。

また、詩人金子みすゞは「見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ」と謳い上げておりますが、世の中やお檀家様の安寧を願つて、日夜読経に励んでくださっている菩提寺。それだけにその境内にある伽藍や建造物をはじめ、樹木や

庭木に至るまで、すべてが阿弥陀様の慈悲によつていのではないのでしょうか。そして、その風情に出会う私たちの心も穏やかにし、神聖な気持ちへと誘つてくださるのであります。

ぜひ散歩のときにも気軽に足を延ばしてみたいかがでしょうか。年頭にあたり、皆様のご清福をお祈り申し上げます。

合掌

平成を振り返る

平成元年の寺報

平成元年の寺報を紐解いてみました。平成最初の紙面には次のような内容が載っていました。

● 開山六〇〇年記念行事

『晋山式』の準備進む。

くお稚児さん募集

● 二十七世善弘上人引退

● 当山の「いとひば」が

栃木銘木一〇〇選に

ちょうど平成にかわるときに、

法蔵寺では住職交代がありました。新任職就任の儀式である「晋山式(しんざんしき)」の準備が進められていました。新任職入山の「お練り行列」が、大桑町沼尾医院から法蔵寺まで行われました。めつたにない機会に、多くのお稚児さんがあつまり、町を練り歩きました。太平洋戦争直後に就任し、約四〇余年奉職した前任職は晋山式翌年の正月明けに、病にて逝去しました。法蔵寺の寺報は、手書きの「ガリバン印刷」に始まり、現住職がワープロを使用し、今はパソコンで作られています。全て保存してあります。今後折を見て紹介していきたいと思ひます。

寺報を見るとその時々のお寺の様子がよくわかります

